

「矛盾」・・・この語源は、韓非子という書物に出てくる故事成語で、あることを一方では肯定し、一方では否定する、つじつまが合わないという意味です。私たちの心の中にもこの「矛盾」がないでしょうか。「あの人に幸せになってほしい」と思いながら妬んでしまったり、「信じたい」と思う反面、「裏切られるんじゃないか」と不安になったり、私たちは何かしらの矛盾と戦いながら生きています。しかし、イエス様と出会った私たちはこれまでと何が違うのでしょうか。①「こんな私でも愛されている」ということがわかる。私たちには私たちにしかできない計画、使命があります。これはそれまで持っていた「夢」とは違い、もっと現実味を帯びた自分の人生計画で、それがはっきり立てられるようになったのです。②「自分はゆるされている」ということがわかる。毎日悪いことをしたとしても、悪いことを考えていても赦されていることがわかります。このことは心の安定を生みます。③行くつく先（帰り先・天国）がわかっている。④悪いことを悔いて改める、赦す努力ができる。自分にとってどんなに嫌な相手であってもその人の祝福を思って祈ることができます。そして自分の悪かったことに気づき「神様ごめんなさい」と悔い改めることができます。このようにして神様は日々生まれてくる私たちの矛盾を神様の愛で解消してくれるのです。どうして矛盾をなくさなくてはいけないのでしょうか。それは、矛盾があると落ち込むからです。心の矛盾がたまればたまるほど落ち込んでいくのです。だからこそ矛盾を解消していくことが大切です。（ヨハネ14：1～18、27）「成し遂げたい⇒やめたい」「寝たい⇒起きたい」私たちにはこのような矛盾がありますが、日々の矛盾を早く解消することで道が開けるのです。いつもつじつまが合わない矛盾した心で悩んでしまう私たちにイエス様は「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。」（14：6）と言っています。イエス様が正しいことを示し、道となり、永遠なのです。「あなたがたは心を騒がしてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい」（14：1）矛盾を解消するためには、イエス様を受けいれるということを徹底する必要があります。神様を信じていたとしても、この部分では信じてみたり、この部分では不安になってみたりを繰り返していたのでは、結局心を騒がして信じていないということなのです。「わたしが父におり、父がわたしにおられるとわたしが言うのを信じなさい。さもなければ、わざによって信じなさい」（14：11）言って信じないのなら業で信じなさいと言っています。今の時代、イエス様は実在せず、私たちの心の中にいるので見ることはできませんが、「業」なら見るすることができます。私たちはこれまでしてもらったことを思い出せば思い出すほど、神様の「業」を見ることができます。そして信じきった人には道が開けますが、信じない人には約束が叶えられません。信じることに徹底してください。そうすれば①わたしたちには住まいがある。（14：2、3）私たちが神様とともにいる場所をイエス様が用意をし、わざわざ迎えに来てくださるのです。②イエス様が行う御業を行うことができます。（14：12）私たちは誰も「ほめられたい。認められたい」「人の役に立ちたい」と思っています。神様を信じ、イエス様の業を行うことで人に役に立つことができ、結果、人に慕われ認められるようになります。③何でもしてもらえる。（14：1、14）イエス様の業を行うとき、イエス様の名によって祈って求めることがセットになります。その時に、神様は「何でもしましょう」と言っています。イエス様が天のお父様に祈って求めたように、私たちも天のお父様に与えてもらえるのです。「これをするために必要です。だから与えてください」その思いが神様と同じなら備えてくださるのです。④聖霊が与えられる。（14：26）私たちが迷ったときに道を示してくる聖霊様を与えてくださいます。⑤孤児にはならない。だから心を騒がす必要がないのです。⑥平安を与えられる。あなたは心を騒がしていないでしょうか。神様を信じていたとしても心が騒いでいるのであれば、信じ切れていないというパロメータなのです。神様を信じている私たちは、神様の喜びがしたいはずですが、だからこそ信じることを徹底しないと意味がないのです。信じることを徹底しましょう。正しくなければいけない、強くなければいけないということではありません。悪いことをしたとしてもそれがわかって、すぐに直せることがすばらしいのです。将来の計画やビジョンを進めようとしたときに、マイナスなものを感じて、ついていけない自分を感じるかもしれませんが神様が言いたいのはそんなことではありません。私たちにアダムとイブの原罪があり、悪いことをしてしまいます。しかし、そのことに気づけ、悔い改めて、悪いことをしないように先手で対策を打つことができることがすばらしいのです。そして何より大切なのは、私たちが「愛されて大事な存在」だということ。私たちがどんな状況であっても、イエス様は、真理の、道理の通った道を示してくれています。暗くて見えない、入り口の狭い道もあるかもしれませんが、心を騒がしてはいけないのです。信じきってれば心を騒がさなくてよいのです。神様の御心であれば不安になったり心を騒がしたりせず、信じて祈って行動すればよいのです。何かをしようとしているときに、「私にできるかな」と思っていることがあるかもしれませんが、「あなたを孤児にしない」「帰る場所を用意している」「求めるものは何でも与える」「私の行う業を行いなさい」イエス様はこう言っているのです。信じることに徹底し、信じきってイエス様の真理の道を歩んでください。そのために心の中にある矛盾を解消してください。もうあなたは自分で解消できます。「立ちなさい。さあここから行くのです。」（14：31）信じきってここから力強く出発しましょう。（要約者：岩崎祥誉）